

さよなら原発9.23全国集会開催

「さよなら原発9.23全国集会」に参加して

2025年9月23日(火)東京、代々木公園にて、さよなら原発全国集会が「ともに声をあげよう！脱原発と気候正義のために」のテーマのもと開催され全国から4500人の参加者が集まりました。

気候正義とは、最も深刻な影響を受ける人々と連帯し、不平等と格差をなくし、公正な社会への転換を目指すこと。そして人々の命や尊厳を守ること。

原発やエネルギー問題を知り、人々の暮らしや命を守る重要な問題として考えてもらうために毎年3月と9月に集会を開催しています。

全港湾では関東地方横浜支部、東京支部、鹿島港支部、東北地方ひたち支部の多くの仲間が集まり中央本部からは鈴木誠一執行委員長と松永英樹書記長が駆けつけて下さりました。

ステージではライブパフォーマンスや呼びかけ人による挨拶、活動団体の報告などが行われました。

原木しいたけの生産者でありJAつくば市谷田部の飯泉厚彦さんのパネルトークでは原発事故に伴う放射性物質の影響により、当時厳しい状況に追い込まれた生産現場の苦悩やその後の風評被害など多くの困難を伝え二度とこのような被害を生まないように原発のない社会に向け声を上げていきたいと主張しました。その後参加者達は渋谷と原宿の2方面に分かれ全港湾は原宿方面に向かい表参道を列を組んで行進し、地域住民や観光客、買い物客へ原発のない社会実現を訴えました。

今後も全港湾として脱原発、反戦、護憲の活動を強化し子供達の未来を守る戦いを続けて行くことを改めて確認し参加者全員で団結一本締めにて解散しました。

関東地方横浜支部青年部 青年部長 村山善重



第0073号 2025年10月6日発行
全日本港湾労働組合 発行日：随時

JCO 臨界事故 26 周年集会開催



JCO 臨界事故 26 周年集会に参加して

9月28日に茨城県東海村で行われたJCO臨界事故26周年集会に参加させて頂きました。県内外から約190名ほどの参加者が集まりました。集会では「臨界事故を語り継ぐ会」事務局の大泉実成さんが登壇し、事故当時のお話や体験談をお話しになりました。大泉さんの両親はJCOから約120メートル離れた場所で営んでいた自動車部品工場で被爆されその後、両親は2002年、JCOや親会社を相手に健康被害への補償を求める訴訟を起こしたが、8年後に最高裁で敗訴が確定となり、大泉さんは「原告により高度な（被害の）証明を求める判決だった。私たち一市民にとっては限界を超えるもの」と苦しい胸の内を明かしました。その話を聞き、国や県の無責任の行動が国民一人一人を苦しめているんだと改めて感じました。日本国内で初の被爆による死亡者を出したこの痛ましい事故から26年経ちましたが、決して風化をさせてはいけませんし、忘れてはいけません。核と人類は共存出来ません。時が流れたとしても被災者とその家族の思いや苦しみは決してなくなりません。全港湾の仲間も大変な思いをしました。改めて原発は危険で国民一人一人を苦しめる悪であると思いましたし、再稼働をしてはいけなく強く感じました。

集会後のデモ行進では安心して安全な生活を守る為シュプレヒコールを叫びました。行進では全港湾が中心となり盛り上げる事ができ、全港湾の強くて深い横の繋がりを改めて感じる事ができました。今回の集会に参加できて本当に勉強になりました。この活動を支部、分会に発信していきたいと思います。ありがとうございました。